

尾ノ上の風

第12号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

6年生 充実の修学旅行

10月31日から11月1日にかけて、6年生が長崎・佐世保方面へ修学旅行に出かけました。お天気にも恵まれ、全日程を予定通りに終えることができました。特に、長崎での平和学習が充実しておりました。原爆で大きな被害を受けた城山小学校の見学からスタートし、グループごとに長崎さるくガイドの方に案内してもらって市内を歩き回り、原爆や戦争当時の話を聞きながら見学することができました。最後は、原爆資料館を見学し、語り部の八木さんという方から被爆された当時の体験をお話していただきました。話を聞きながら、改めて今、平和な時代に生まれ平和な国で過ごすことができている私たちが本当に幸せなことだと思いました。体験談を聞いた後、6年生から「いのちのまつり」というミニコンサートで聞いていただいた歌を、八木さんに聞いていただきました。八木さんからは、「尾ノ上小の子どもたちがこんなに熱心に聞いてくれて本当にうれしくて、ついお話に力がはいつてしまいました。歌には本当に感動しました。平和のバトンをしっかりと渡すことができました」とお話ししていただいた位、素晴らしい平和学習ができたと思います。



充実した1泊2日の修学旅行を終えることができました。

気持ちを込めて歌を披露する6年生

音楽会・ミニコンサート終わる

今年も昨年同様、素晴らしい音楽会・ミニコンサートになりました。2学期に学年で取り組んできた合唱・合奏の練習の成果がしっかりと表現できたようです。1年生の音楽劇、2年生の歌と合奏、3年生では歌、合奏に加えてリコーダー奏、4年生5年生はそれぞれ合唱と合奏、そして6年生はさすが高学年らしい合奏と上の記事にも紹介した素晴らしい歌声。どの学年の発表も本当に澁刺とした、一生懸命さを感じさせる発表でした。



オープニングの2年生演奏



ドキドキのくじ引きの様子

PTA バザー 大盛況

11月3日（日）に体育館、運動場を会場にバザーが開かれました。今年は遊休品のバザーが復活し関心が大きかったようです。運動場では、豚まんやパン、ポップコーンの食バザーのほか、的あてやストラックアウトなどのチャレンジコーナーに子どもたちがたくさん並んでいました。特に、くじ引きで長蛇の列ができるほどの人気でした。曇り空の過ごしやすい天気で、多くの来場者がありました。準備・運営に携われた皆様、本当にお疲れさまでした。

こんにちは！お仕事&授業拝見14 3年3組学級 内山先生編

内山先生の音楽の授業を参観しました。先生の音楽指導では、

①実物投影機を手軽に道具として使って、楽器の技能指導に活用されていること

②個人で演奏させる時間を取り、できない部分をはっきりさせて個別指導をし、できたら力づくよく褒めることが印象に残りました。この日は5時間目で子どもたちには、私に来ることが事前に伝えてあったらしく、子どもたちは、朝の目標を「きれいな音で演奏しよう」と立てており、大変意欲的でした。

授業の最初は「茶摘み」をペアで合いの手をうちながら歌いました。2つ目の曲は、「とどけようこの夢」という曲で、先生が実物投影機で楽譜を見せ、付点がついて伸ばすところなど注意することを伝えたり、ドレミを電子黒板に書き込んで提示したりされました。楽譜を読むのが苦手な子どもたちも、それを見ながら自分の教科書に書き込むことができました。この後リコーダーの練習曲を練習しました。

先生は、きれいな音のためには何が大切ですかと尋ねられると、子どもたちからは、タンギング、穴の押さえ方、息の強さ、姿勢の4つがしっかりと出されました。この後、先生は、一人一人リレー形式で音を出させました。すると、子どもたちに緊張感が生まれ、ぐっと集中したように感じました。個別に演奏させるとできない部分がハッキリします。先生は、できない部分があった子どもにも、「いい音が出るけどな」といいところを褒めた上で、穴の押さえ方、持ち方、息の強さなどをアドバイスして吹き直しをさせました。できると大きな声で「ほらできた」「良かった」と笑顔で褒められました。子どもは、実に、うれしそうなお笑顔になり、その後の態度は、一段としゃきっと集中していった音楽の授業でした。



リコーダーを演奏しながら子どもたちを指導する場面

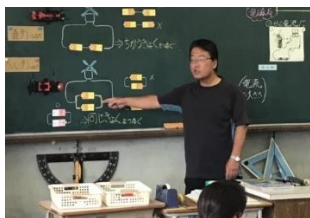


内山 宏子 (うちやま ひろこ)先生 尾ノ上小5年目

【内山先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

とても運動が好きでした。健康教育で元気な子どもたちを育てたいなあと思っていました。そのほかの学習ももちろん大切ですが、体育面を大切にして、心身ともに元気な子どもたちを育てたいというのが先生を志した理由ですね。

こんにちは！お仕事&授業拝見15 4年理科 下城先生編



実物を黒板に張り付けた分かりやすい板書(上) 定規を使いながら丁寧にノートに書く4年生の様子(下)

教務主任をしている下城先生の理科の授業を見せていただきました。先生の授業は

①緻密な教材教具の準備 ②机間指導で繰り返し子どもたちの様子を見ながらの適宜支援 ③先生らしい個性的な子どもとのやりとりであり、先生にしかできない授業の神髄がありました。授業の始めに礼をしたかと思うと、いきなり「クイズ第1弾、このつなぎ方とこのつなぎ方の違いがわかったら座っていいよ」と問いかけられました。まさにいきなり授業突入で見事。黒板には電流の直列つなぎと並列つなぎの図が書いてあり、子どもが答えると「なんでこれを直列つなぎっていうの」と問い掛けられました。授業の本題に入ると、「なんでモーターが早く回るか3分で考えてノートに書きなさい」と考えさせてから発表させ、「なんで並列つなぎは電池が2つなのに1このときと同じ電流の強さなのか」と問われました。子どもが「電流の量が少ない」と言うのと「なぜ」と問う。先生の授業の中では、なぜ、どうしてと理由を聞くことが何回もありました。そのたびに子どもたちはぐっと黙りながらも必死で考えて発言していました。授業では、何人かの子どもの発言を大事にし、教師が一方向的にまとめをするのではなく、子どもたちの発言から集約していかれました。子どもとのやりとりは、大変面白く、かつあたたかいです。先生の言葉だけを文字にするとぶっきらぼうになりますが、先生の表情の笑顔と動作、時には「がくっ」とこけて見せたり、声の強弱や表情を大きく変えたりされ、その雰囲気から子どもたちはリラックスしていました。それでいて、集中していく雰囲気にも巻き込んでいかれた授業でした。



下城 幸秀 (しもじょう ゆきひで)先生 尾ノ上小6年目

【下城先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

小学校教師をしていた父親の背中を見て育った影響です。父親を見ていて毎日、変化があって楽しそうだなと期待が持てたからです。子どもと接するのが基本的に好きなので、この仕事を選びました。